

# さんりく 明日へ

東日本大震災を乗り越えて、  
前に進もうとする三陸の人たちからの  
メッセージを届けます。



岩手県大槌町の中学2年生。小学3年の  
とき、地元の民謡教室に通い始めた。コ  
ンクールに挑戦を続け、2年前には「青  
少年みんよう全国大会」でグランプリ  
に輝いた。若き実力派である。今後は、  
学校の休みを利用して歌手活動をして  
いく予定だ。

臼澤みさき-TEICHIKU RECORDS  
7月のデビューに先がけ、「故郷」の先  
行配信が予定されている。  
詳細は、下記URLで確認を。  
[http://www.teichiku.co.jp/teichiku/  
artst/usuzawa-misaki/](http://www.teichiku.co.jp/teichiku/artst/usuzawa-misaki/)

あどけない笑顔の13歳。しかし、  
ひとたび歌い出すと、その声は  
聴く人の心を震わせる。大槌町  
に住む臼澤岬さんは7月25日、  
歌手「臼澤みさき」として全国  
デビューする。春休み中に上京し、  
デビュー曲「故郷（ふるさと）」  
をレコーディングした。

町が東日本大震災の津波に襲  
われたのは、小学6年のとき。  
幸い、家族も家も無事だった。  
民謡を習い、高齢者などを対象  
とする慰問活動をしていた岬さ  
んは震災後、避難所への慰問を  
行うようになった。テレビの取  
材を受けることもあり、その姿  
が画面を通じて音楽関係者の目  
にとまって見出されたのである。

震災後、停電と断水の中での  
不自由な生活を経験した岬さん  
は、「1週間後、1カ月後に生き  
ていられるのかなと思うことも  
ありました」と、当時は振り返る。  
「でも、全国から、そして海外か  
らもたくさんのお金を送っても  
らって、おかげでこうして生き  
ています。だから、歌うことで  
お礼ができれば……」。

デビュー曲には、ふるさとを  
離れた人が、ふるさとを想う気  
持ちは込められている。「大槌町  
の風景とか、夏の日のこととか  
を思い浮かべながら練習しまし  
た」という岬さん。その歌を聴  
いた人々は、心の中にどんな風  
景を思い浮かべるのだろうか。

臼澤 岬 さん

13歳でCDデビュー

ありがとうの気持ち  
を歌でお返ししたいんです

